

小 建 第 926 号

平成20年10月22日

国土交通省道路局長 様

小千谷市長 谷 井 靖 夫



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号により依頼のありました標記のことについて、別紙のとおり回答いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

- ・ 新たな整備計画策定に際しては、地方の活性化や地域間格差への対応など、道路以外に交通手段を持たない地方の実情に即した透明性の高い計画の策定を期待いたします。
- ・ 遅れている地方における道路整備に対し、必要かつ安定した財源の確保を図るとともに、地域住民が道路整備の進展を実感できる道路施策の一層の推進をお願いします。
- ・ 震災・防災対策、良好な沿道環境づくり、高齢者や児童等の利用を重視した人優先の道づくりのため、歩道や防護柵など交通安全施設等の整備をお願いします。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

○現状

- ・ 小千谷市の人口は市制施行後ピーク時には 52,000 人を超えていましたが、平成 20 年度には 40,000 人を下回るまでに減少しており、過疎化等の影響による限界集落の増加、大型小売店の郊外への進出や中越大震災等により中心市街地の空洞化が進んでいます。
- ・ 中越大震災発生時には、道路・山腹等の被災により多数の集落が孤立しただけでなく、国道等の緊急道路網も被災し、交通渋滞を引き起こしました。
- ・ 豪雪地帯にある小千谷市は、冬季交通の確保のため機械による除雪だけでなく、水資源を利用した流雪溝や消雪パイプの整備を進めてきました。一方、雪国の暗いイメージを払拭するため、雪を積極的に楽しむ「利雪・親雪・遊雪」の意識の定着を図ってきました。

○課題

- ・ 市町村合併の進展等により、働く場を始め、学校・医療機関など市民生活の広域化が促進され、自治体間の連携がますます重要になっています。このため、地域間を連絡する幹線道路の整備充実が求められています。また、中心市街地の空洞化に対応するため、周辺地域から中心市街地へのアクセスの向上が求められています。
- ・ 災害時に集落を孤立させないような道路網整備が必要であるだけでなく、災害に強い道づくりが必要であります。
- ・ 冬季間の生活を充実させるためには、道路交通の確保だけでなく通勤・通学等歩行者空間の確保を図る必要があります。また、防災体制の整備とともに地域と一体となった克雪体制の確立が求められています。

今後の道路行政についての意見・提案

②-2 地域の目指すべき将来像

- ・ 小千谷市のまちづくりの基本方向のうち、道路に関連する主要事項としては、
 - ① 安全で快適な美しい環境のまち（環境、防災、交通安全）
 - ② 豊かな自然環境と共生するまち（都市基盤）を掲げています。
- ・ 「安全で快適な美しい環境のまち」実現に向けて、中越大震災の経験をもとに防災体制づくりなど災害に強いまちづくりを進めます。また、快適な雪国生活を推進するため、歩道の整備や消雪施設の整備を進めます。
- ・ 「豊かな自然環境と共生するまち」実現に向けては、高速交通網の整備や市町村合併により、人と物の交流は広域化が進んでいるため、主要幹線道路を整備し、地域の発展を図ります。

今後の道路行政についての意見・提案

③ 道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
① 地域間の連携強化を図る主要幹線道路の整備	・ 国道17号の4車線化 ・ 信濃川流域広域幹線道路の整備(左岸バイパス)	・ 働く場や学校・医療等広域化による地域内交流の強化	
② 生活幹線道路網の整備	・ 国道117号バイパス、主要地方道の改良整備	・ 救急医療施設、工業団地等住民の生活や経済・社会活動を支えるための道路網の確保	
③ 歩行空間の確保	・ 市街地における主要道路の歩道整備	・ 通学時の子どもの安全確保や冬期間の交通確保	
④ 災害(地震・豪雪等)に強い安全・安心な道路整備	・ 中山間地道路の防災対策 ・ 橋りょうの耐震補強 ・ 除排雪、消融雪施設の整備	・ 中越大震災の経験から、災害時の中山間地域における孤立集落の解消	